

西小は 大きな 家族

Family

～校長のたわいもない独り言・その2～

令和2年2月21日(金) No.53

発行人

もうスキーは終わりかな。最後に
もう一度行きたいなあ。の川崎先生。

◆二分の一成人式 by4年生 2/13 (木) ◆

えっと、他人なんですけど泣いてもいいですか？

本当に成長しましたね4年生。一生懸命に「今の自分の姿を見てください！！」と胸を張る態度。これはもう涙腺を直撃ですよ。一番前と後ろにいた二人のお父さん、一緒に号泣しましょうよ。

と、思わず書いちゃうくらい感動です。しばらくは感激に浸ります・・・・・・・・・・。
すると、えっ？校長室の外で泣き声が・・そこにはお母さんの手紙読んで号泣している女の子が。いたるところで起きている感動の嵐・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。
・・。

さて、数時間たって冷静になりました。

ホールにこだまする”大人”についての考え、合唱にダンス。どれもこれも自信を持ってみんなが胸を張っている。もちろん築野tのふわっと包み込むような指導もあったのは間違いないけれど、それを吸収して自分たちで練り上げたからこそ、この自信ある姿になっていたのだろう。これこそが成長の証。あっぱれ4年生\(@o@)/！

★土器焼き縄文パーティ by6年生 2/14 (金) ★

川崎がまだ小学生の頃、平岡の畑を耕していると普通に土器のかけらが出てきた。黒曜石(こくようせき)もよく見つけた。あまりにも当たり前すぎて、捨てることも集めることもしなかった。ただ何となく、この場所は昔から人が住んでいた程度の意識だった。

それが今や、自分たちで土をこねて形を作り、火の周りで焼いて土器をつくる。その土器で縄文時代の人たちが食べていたであろう野菜を黒曜石で切ってスープを作り、サンマを焼き、石でクルミを割ってクッキーを作る。教室の学習から実体験へと進化していく。この中から得られること、肌で感じること全てが、古より人間が育んできた生きるための知恵である。歴史や文化を学ぶという事はこういうことであり、この体験ができることが何より素晴らしい。これが卒業製作なのだから、さすが西小。さすが西地区。さすが6年生。何とも誇らしい限りだ。

●雑感&雑感●

・コロナウィルスが日本でも流行りそうな今、保健室のすごさを実感。だって、川口tってどんなケガであっても、落ち着いて手当しているし、頭が痛い！お腹が痛い！気持ち悪い！食欲ない！だるい！ねむい！つらい！悲しい！なんて、いろんな子どものいろんな症状を一人で引き受けて、テキパキテキパキ対応してる。インフルエンザが流行すればその対応だし、ノロウィルスの疑いがあればその対応だし、熱中症も気をつけなくちゃならないし、それに今度は新型コロナウィルス！！こんなやばいことでも対応しなくちゃならない。頼りにしてます(^ム^)。しかしコロナウィルス、子どもたちに感染しないことを心から祈る。